

第44回

ICTワーク ショッフ。

フィジカルAI研究、地震予知、
大学発スタートアップが知財で
直面する課題

2026

2/19 (木) 16:00～17:40

(100周年記念ホール及びオンライン同時配信)

要申込
詳しくはこちら



交流会(参加費1000円,ただし学生は無料)を実施します。
対面および交流会は先着35名様に限らせていただきます。(2/13正午締切)



国立大学法人
電気通信大学
The University of Electro-Communications

主催：国立大学法人電気通信大学

後援：一般社団法人首都圏産業活性化協会 (TAMA協会)

企画：産学官連携センター UECアライアンスセンター運営支援部門

プログラム

(1) 「ELSA Physical AI Lab : GPU Test DriveとAI-Stackで加速するフィジカルAI研究」

岡田 英彦 氏

(株式会社エルザジャパン Physical AI事業部 部長)

ELSA Physical AI Labは、現実世界で動くフィジカルAI研究を加速するための研究基盤です。

GPU Test DriveによりAMD・NVIDIAの高性能GPUをリモートで利用でき、AI-Stackを用いることで環境構築の負担を最小化します。研究者や学生が最新AI環境を効率的に活用し、学習・検証を高速に進められる点を紹介します。

(2) 「新しい組織(一社)QuakeInsight Tokyoの目指すもの」

早川 正士 氏

(一般社団法人QuakeInsight Tokyo 代表理事)

「地震予知は不可能」とする国の方針が出されていますが、これはすなわち、「地震学の手法ではできない」という意味です。我々は1995年の神戸地震時にVLF電波を用いて前兆電離層擾乱を世界に先駆けて発見し、その後も電磁気現象を用いた短期予知（約1週間前）技術の開発に努めています。

2025年10月、"一般社団法人QuakeInsight Tokyoを立ち上げ、関東地区に特化した複合観測網を構築し、融合的な解析により巨大地震の予知を目指します。

(3) 「大学発スタートアップが知財で直面する課題について」

藤木 尚 氏 (藤木国際特許事務所 代表弁理士)

スタートアップの支援経験を多く有する講演者が、大学発スタートアップが知財で直面するよくある課題について、事例をもとに、どのような点が問題となつたかを紹介します。大学発の素晴らしい技術に関して特許を取得する点は悪いことではありません。しかしながら、スタートアップを起こし、ビジネスを運営するとなると、知財、例えば特許は、武器・防具として、違った見え方、使い方を要求されるかもしれません。早い時点でよくある課題について認識しておくことは有用です。